

三郷地域での脱原発・放射能防護運動の取り組み

2011年6月25日
協議会社保友の会委員会
東條 哲二

1) はじめに

①福島県広野町からの避難者が三郷市へ

広野町と三郷市が災害時における相互支援協定、約230人が瑞沼市民センターに避難ボランティアや文化行事への案内に対する市の担当者の姿勢

*** 原発事故と今後の見通し、放射能問題についての学習会の必要性**

②いわゆる「ホットスポット」の情報にもとづく緊急会議

三郷市・流山市・柏市・松戸市で高い放射線量を測定

「核戦争を防止する埼玉県医師・歯科医師の会」の緊急声明(5/10)

*** 放射線(内部被曝)から子供たちを守る取り組みの重要性**

5月15日(日)午後5時～ 健和クリニック会議室にて

大場先生の呼びかけで、宮崎理事長、佐々木健和病院事務長、福田団地診事務長

苗村市議会議員、東條が参加

@陳情書を市議会に提出することを確認(市民有志が同趣旨の請願を提出するとの情報)

2) 三郷市への陳情と「放射線から子供を守る三郷連絡会」

陳情趣旨抜粋

「外部被曝では『直ちに健康障害はおきない』としても、成長期にある子供たちは放射線感受性が高く、たとえ低線量であっても後年に深刻な被害が引き起こされる危険がある内部被曝を考慮すれば、細心の注意を払うことがどうしても必要です。」

陳情事項

1. 三郷市内の小・中学校、保育所・幼稚園において放射線量を定期的に測定すること(校庭・園庭の土壌及び地上<中学校1メートル、小学校以下0.5メートル>)。

1. 測定結果を公表すること。

陳情者には、団体として、教職員組合、社会福祉法人小鳩会、NPO法人「青い空」、健和会、アカシア会、他に10人の市民有志が加わった。

*** 三郷市議会及び市の対応**

請願は否決、議会として決議を上げ、市当局は市内の小中学校、幼稚園、公園で、0.5m、1mの空間線量を測定し、公表することを決めた。ただし、地表(土壌)の測定は除かれた。

6月4日、大場先生の呼びかけで、「放射線から子供たちを守る三郷連絡会」を結成。

代表世話人に大場敏明(アカシア会理事長)、世話人に、宮本幸伸(三愛会総合病院副院長、小児科医師)、本城美智恵(みさと健和クリニック 小児科部長)、大場文江(クリニックふれあい早稲田副院長 小児科医師)、宮崎康(健和会理事長)、中山智子(市内早稲田在住、父母)、浅草秀子(NPO法人ワーカーズコレクティブ青い空 理事長)、高橋こずえ(つくし保育園園長)、染谷武(元国際原子力機関職員)など

* 6月18日に学習会実施 三郷市文化会館会議室にて 内部被曝問題、線量測定について

3) 6/4 原発問題学習会の取り組み

4月23日、日本科学者会議緊急シンポジウムに参加
放射線防護学の専門家である野口邦和氏を講師に招いた

放射線の被曝問題を中心とした学習会—— 一言で言えば「恐れて、怖がらず」
レジュメからの抜粋

「損傷した箇所から大気中に放出された放射性ヨウ素と放射性セシウムなどの付着した粉塵が空気中を漂い、風により運ばれて降下し、野菜、水、土壌が汚染した。厚生労働省は原子力安全委員会の定めた緊急時における「飲食物摂取制限に関する指標」を暫定規制値として採用した。暫定規制値をメディアは安全基準と称することが多い。しかし、これは大規模な放射能放出を伴う原発事故時に甲状腺が年50ミリシーベルト（放射性ヨウ素に対して）、全身が年5ミリシーベルト（放射性セシウムに対して）を超えることのないように日本人の摂取する食品の品目や摂取量を考慮して逆算した数値を丸めたものであり、「がまん基準」と呼ぶべきものである。被ばく線量は低ければ低いほど安全であり安心であるという姿勢を堅持したい。暫定規制値を超えた食品や水は摂取しないことは当然であるが、暫定規制値以下の食品や水であっても可能な限り低い濃度のものを選択したい。また、行政は食品や飲料水の放射能監視体制を強化し、間違っても暫定規制値を超えたものを流通させないように努めなければならない。」

4) 友の会医療懇談会での学習、「健康のひろば」へ寄稿

放射線課の菊池課長を講師に、学習会開催。健和友の会社保委員会、水元ブロック、高州ブロック
「健康のひろば」6月号 病気の話欄に大場先生が寄稿「内部被曝による子供の健康障害」

5) 今後の取り組み

関東近県での自治体による放射線量測定が、住民の声に押されて、広がっている
自然界や医療の放射線ではない、「人工の放射線」は限りなくゼロであるべき

* 今後、海洋汚染の広がりが懸念される

①放射能から子供を守る取り組み

三郷市による測定の監視と測定方法の改善（必要があれば市などに対策を求める）

内部被曝に対する正しい知識を学ぶ（内部被曝の危険性の排除）

7月16日（土） 午後 学習会予定

②脱原発に向けた運動

* 三郷地域での学習と脱原発署名活動などをすすめる

「安全神話」の崩壊、核兵器から出た未確立の技術

「原発利益共同体」——アメリカの圧力、政官財の癒着構造が原発を推進

脱原発、原発依存のエネルギー政策の転換を（原発は決して安くない）

地域経済・中小企業の復興と結び付けて

* 7. 2 脱原発集会への参加を!

メイン集会 13:00~14:20 パレード 14:30~16:00

7月2日（土） 明治公園